

平成 30 年度決算について

平成 30 年度の決算につきまして、第 53 回組合会にて議決されましたので、下記の通りご報告致します。

記

(1) 健康保険

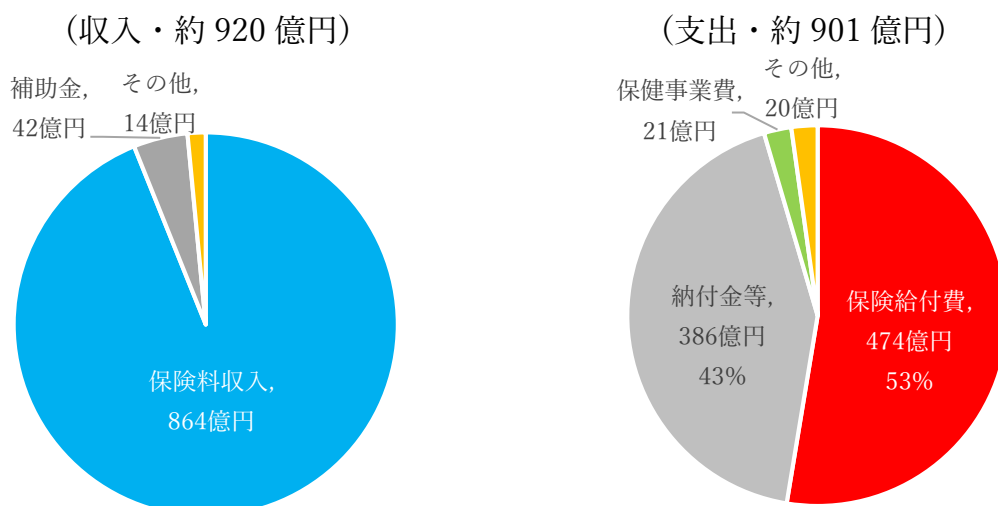
平成 30 年度の健康保険は、約 920 億円の収入に対して、約 901 億円の支出で、約 20 億円の黒字決算となりました。当初予算では想定していなかった補助金収入^{*1}が約 42 億円あることから、これを除く実質的な収支は約 23 億円の赤字となります。社会保障に対する政府予算も毎年厳しい状況となる中、今後とも当健保に同補助金が支給されるかは不確定であり、支給されなかった場合には、赤字額を積立金の取り崩しで補填することになります。

支出の内訳では、健康保険の本来の目的である医療費の給付や各種給付金の支出が約 474 億円に上り、全体の約 53%を占め、最も高い割合です。組合全体として高齢層の増加傾向があり、それに伴い保険給付費も増加傾向にあります。引き続き、特定健診・人間ドック・禁煙サポートといった計画的な保健事業により健康維持、重症化予防推進での保険給付費の抑制に取り組んでまいります。併せて、「正確」「公正」「迅速」な保険給付を通して医療費適正化に努めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

また、高齢者医療制度への支援金、拠出金などの納付金^{*2}は約 386 億円、全体の約 43%となり高齢者医療制度への負担が大きくなっています。

^{*1} 高齢者医療運営円滑化等補助金

^{*2} 前期高齢者納付金約 191 億円、後期高齢者支援金約 194 億円(平成 30 年度決算)



（２）介護保険

平成 30 年度の介護保険は、約 88 億円の収入に対し約 83 億円の支出で、約 5 億円の黒字額を翌年度に繰り越しました。40 歳以上 65 歳未満の第 2 号被保険者の皆様からお預かりしている介護保険料は、当健保が市区町村に代わり徴収しているものです。平成 30 年度より介護保険料率を変更させていただきましたが、加入者数に応じて負担していた「加入者割」から被保険者の総報酬に応じて負担する「総報酬割」への段階的な移行による負担増や、今後ますます進む高齢化社会への対応等により厳しい状況は変わりません。

収入計	88億円
保険料収入	86億円
その他収入	2億円
支出計	83億円
介護納付金	83億円
その他支出	0.02億円
次年度繰越	5億円

介護納付金の推移

